

6大学工学系人材交流プログラム

6U-HAPPIER

Six University Human Assets Promotion Program
for Innovative Education and Research



令和3年度 6大学工学系人材交流プログラム

1. 六大学工学系人材育成協定

- 教員の相互交流及び教育・人材育成の相互支援を通じて
 - 人材の育成
 - 組織間での知の共有化
 - 組織の共進化を実現することを目的として、人材育成を進める
- それぞれの自主性を尊重
- 平等互恵の原則
- 相互支援活動
 - 教員の大学間の人材交流活動
 - 六大学工学系人材交流協定
 - 教育・人材育成

令和3年度 6大学工学系人材交流プログラム

2. 六大学工学系人材交流協定

- － 若手教員の人材交流による人材の育成
 - ・ 将来の研究/教育/組織運営におけるリーダーとして活躍が期待される人材の育成

3. 交流協定(交流プログラム)参加組織

- ✓ 北海道大学 大学院工学研究院
- ✓ 東北大学 大学院 工学研究科、環境科学研究科
医工学研究科
- ✓ 東京工業大学 工学院, 物質理工学院, 生命理工学院,
環境・社会理工学院
- ✓ 名古屋大学 大学院工学研究科
- ✓ 大阪大学 大学院工学研究科
- ✓ 九州大学 大学院 工学研究院、システム情報科学研究院

令和3年度 6大学工学系人材交流プログラム

4. 交流プログラム対象教員, 派遣期間

- － 准教授または講師
 - ・ 派遣期間満了時点で原則45歳程度まで
 - － 派遣期間
 - ・ 原則として3年とし, 3年を超えない範囲で予め定める
 - ・ 変更は, 派遣教員, 派遣元, 派遣先すべての合意がある場合のみ
- ✓ 派遣教員並びに派遣元・派遣先の合意の上で実施

5. 本交流プログラムによる派遣形態

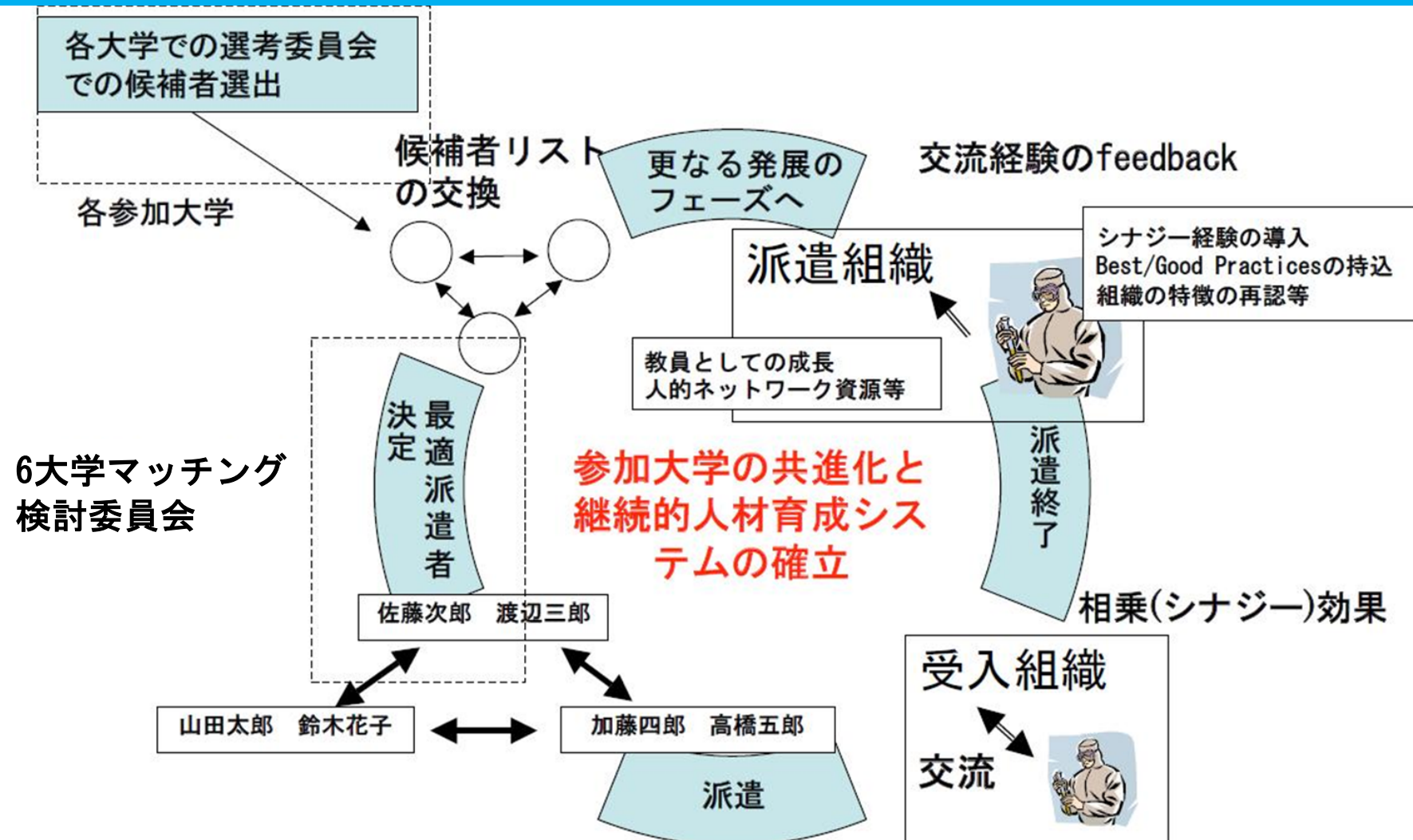
- － 転籍出向
 - ・ 派遣先組織に在籍(派遣元組織へ復職することを条件とする)
 - － 在籍出向
 - ・ 派遣元組織に在籍. 派遣先組織において業務に従事
 - － クロス・アポイントメント
 - ・ 派遣元組織に在籍. 派遣先組織において一定の割合で業務に従事
- ✓ 形態は派遣教員の希望と両大学の合意による

令和3年度 6大学工学系人材交流プログラム

6. 派遣教員の選考プロセス

- (1) 希望教員が申請書を提出
- (2) 派遣候補者選考委員会（各大学）
 - － 申請書に基づき派遣候補者を選考
 - － 「派遣候補者リスト」を作成
- (3) マッチング検討委員会（6大学の代表教員で構成）
 - － 各大学の「派遣候補者リスト」の情報に基づき派遣候補者を決定
- (4) 派遣条件の決定, 派遣の実施
 - － 派遣候補者並びに派遣元・派遣先が合意

プログラムの概要



令和3年度 6大学工学系人材交流プログラム

7. プログラム実施の周辺制度

- － 派遣期間中の研究経費に関する十分な配慮
- － 必要な研究スペースを派遣先が保証
- － 派遣時の実験装置の移転等経費は派遣先が負担(帰任時は派遣元負担)
- － 宿舍の手配は派遣先が尽力
- － 派遣時, 帰任時の学生の進学・転学受入に配慮
 - ・「六大学工学系人材交流協定による教員の異動に伴う大学院学生の転入学に関する協定書」
- － 派遣先での処遇(賞与等)に関する十分な配慮

8. プログラムのメリット

- － 他大学の雰囲気, 学生, 組織運営を知る → 近い将来に派遣元で活かす
- － 他分野を知る → 新たな研究の展開
- － 専門分野を深める → 研究に専念
- － 他地域の文化を知る

⇒ 活力のあるヒューマンネットワークの構築

令和3年度 6大学工学系人材交流プログラム

9. 募集・選考スケジュール

- － 6月下旬 募集開始
- － 7月下旬 募集締切
- － 8月上旬 学内選考
- － 9月 マッチング検討委員会による調整
- － 10月 各大学で承認, 10月以降 各大学で派遣手続き開始

10. 申請方法

- － 下記内容を含む申請書(形式自由)を提出
 - ①氏名, 現在の所属
 - ②略歴(生年月日を明記)
 - ③応募理由(200字程度)
 - ④現在の専門と修得したい学術分野・対象
 - ⑤希望派遣先
(大学・専攻名・(講座名あるいは分野名)等)
(希望順位を付けて3件以上, 複数の大学が望ましい)
 - ⑥希望派遣先での研究計画(500字程度)

令和3年度 6大学工学系人材交流プログラム

- ⑦研究論文等のリストと主要論文の別刷り(コピー可, 5報程度)
- ⑧最近の外部資金獲得状況(科研費, その他研究助成等)
- ⑨派遣期間終了後の抱負

＜以下の項目に関しては,特筆すべき事項がある場合のみ記載＞

- ⑩共同研究歴,
- ⑪教育経験(講義, 学生実験等)
- ⑫学生指導実績(学部, 修士, 博士)
- ⑬学内委員(教務, 衛生管理等)
- ⑭社会活動(学会活動等)

(各大学毎)

申請書宛先: 各所属学院長

申請期限: 令和2年7月30日(金)

提出先: 各大学担当事務グループ

これまで(6大学)の人材交流 教員名簿(1)

異動年度	氏名(敬称略)	派遣元	派遣先	現状
H18～H20年度	山本 芳彦	名古屋大学 化学・生物工学専攻	東京工業大学 応用化学専攻	名古屋大学に帰任，教授昇任
H18～H20年度	中川 貴	大阪大学 ビジネスエンジニアリング専攻	東京工業大学 電子物理工学専攻	大阪大学に帰任、教授昇任
H18～H20年度	大竹 尚登	東京工業大学 機械物理工学専攻	名古屋大学 マテリアル理工学専攻	東京工業大学に帰任，教授昇任
H19～H21年度	西澤 典彦	名古屋大学 量子工学専攻	大阪大学 生命先端工学専攻	名古屋大学に帰任，教授昇任
H19～H21年度	蒲池 利章	東京工業大学 生物プロセス専攻	名古屋大学 物質制御工学専攻	東京工業大学に帰任、教授昇任
H19～H21年度	小野 潔	大阪大学 地球総合工学専攻	東京工業大学 土木工学専攻	大阪大学に帰任 早稲田大学教授
H20～H22年度	藤井 俊彰	名古屋大学 電子情報システム専攻	東京工業大学 集積システム専攻	名古屋大学に帰任，教授昇任
H20～H22年度	寺田 芳弘	東京工業大学 材料工学専攻	名古屋大学 マテリアル理工学専攻	東京工業大学に帰任
H21～H23年度	安田 清和	大阪大学 マテリアル生産科学専攻	名古屋大学 マテリアル理工学専攻	大阪大学に帰任
H21～H23年度	田川 哲哉	名古屋大学 マテリアル理工学専攻	大阪大学 マテリアル生産科学専攻	名古屋大学に帰任後、企業へ
H21～H23年度	高橋 篤司	東京工業大学 集積システム専攻	大阪大学 電気電子情報工学専攻	東京工業大学に帰任，教授昇任

これまで(6大学)の人材交流 教員名簿(2)

異動年度	氏名(敬称略)	派遣元	派遣先	現状
H24～H26年度	阿部真之	大阪大学 電気電子情報工学専攻	名古屋大学 マテリアル理工学専攻	大阪大学に帰任，教授昇任
H24～H26年度	阪口 啓	東京工業大学 電気電子工学専攻	大阪大学 電気電子情報工学専攻	東京工業大学に帰任，教授昇任
H26～H28年度	田中智久	東京工業大学 機械制御システム専攻	名古屋大学 マイクロ・ナノシステム工学専攻	東京工業大学に帰任
H26～H28年度	林 重成	北海道大学 材料科学部門	東京工業大学 物質理工学院	北海道大学に帰任、教授昇任
H28～H30年度	奥村 大	名古屋大学 機械理工学専攻	大阪大学 機械工学専攻	名古屋大学に帰任、教授昇任
H29～H30年度	高山 俊男	東京工業大学 工学院 機械系	大阪大学 機械工学専攻	東京工業大学に帰任
H29～H31年度	松本 隆太郎	東京工業大学 工学院 情報通信系	名古屋大学 工学研究科 情報・通信工学専攻	東京工業大学に帰任
H30～R2年度	笠間 清伸	九州大学 工学研究院 社会基盤部門	東京工業大学 環境・社会理工学院	九州大学に帰任
R3～	實松 豊	九州大学 システム情報科学研究院	東京工業大学 工学院	東京工業大学在任

北海道大学

工学研究院

応用物理学
応用化学
材料科学
機械宇宙工学
人間機械システムデザイン
エネルギー環境システム
量子理工学
環境フィールド工学
北方圏環境政策工学
建築都市空間デザイン
空間性能システム
環境創成工学
環境循環システム

東北大学

大学院 工学研究科

機械・知能系
電子情報システム・応物系
化学・バイオ系
マテリアル・開発系
人間・環境系

大学院 環境科学研究科

先端社会環境学専攻
先端環境創成学専攻

大学院 医工学研究科

生体機械システム医工学
生体再生医工学
社会医工学
医療機器創成医工学
生体流動システム医工学
人工臓器医工学
生体材料
生体システム制御医工学
生体情報システム学



東京工業大学

工学院

機械系
システム制御系
電気電子系
情報通信系
経営工学系

物質理工学院

材料系
応用化学系

生命理工学院

生命理工学系

環境・社会理工学院

建築学系
土木・環境工学系
融合理工学系
社会・人間科学系
イノベーション科学系
技術経営専門職学位課程

名古屋大学

工学研究科

有機・高分子化学専攻
応用物質化学専攻
生命分子工学専攻
応用物理学専攻
物質科学専攻
材料デザイン工学専攻
物質プロセス工学専攻
化学システム工学専攻
電気工学専攻
電子工学専攻
情報・通信工学専攻
機械システム工学専攻
マイクロ・ナノ機械理工学専攻
航空宇宙工学専攻
エネルギー理工学専攻
総合エネルギー工学専攻
土木工学専攻
都市環境学専攻



大阪大学

工学研究科

生命先端工学専攻
応用化学専攻
精密科学・応用物理学専攻
知能・機能創成工学専攻
機械工学専攻
マテリアル生産科学専攻
電気電子情報工学専攻
環境・エネルギー工学専攻
地球総合工学専攻
ビジネスエンジニアリング専攻

九州大学

工学研究院

化学工学部門
応用化学部門（機能）
応用化学部門（分子）
材料工学部門
社会基盤部門
環境社会部門
海洋システム工学部門
地球資源 システム工学部門
エネルギー量子工学部門
機械工学部門
航空宇宙工学部門
海域港湾環境防災共同研究部門

システム情報科学研究院

情報学専攻
情報知能工学専攻
電気電子工学専攻

6大学工学系人材交流プログラムのさらなる発展



工学系人材養成機構 「次世代工学系人材育成コア」事業

(2015.4－2019.3)

Six University Human Assets Promotion Program
for Innovative Education and Research

6U-HAPPIER

6大学の人材交流に終わらない、
次世代を担う工学系人材育成を展開！



次世代工学系人材の 共創共成プログラム

- 大学間の競争と共進化
- 6U-HAPPIER ミッション (Mission)
 - 次世代を担う人財の育成 (Human assets promotion and mobility)
 - 研究 Research
 - 教育 Education
 - 組織運営 Management
 - + 産学連携 Cooperation with industry など . . .
 - 参加組織間での知の共有化 (Knowledge sharing)
 - 参加組織の共進化 (Co-evolution)

次世代工学系人材育成コア

ニーズを共有する大学工学系が協調して、
世界の第一線で活躍する次世代工学系人材を輩出

教育の質の自律的・持続的な向上

- ・次世代の工学系を担う「**教育力**」と「**研究推進力**」「**マネジメント力**」を持った**教員**の育成
- ・教育力、研究推進力、マネジメント力を身につける機会を組織的、継続的に創出
- ・人的ネットワーク構築の場の提供

評価指標

- ・人材コアプログラムの受講教員数/若手教員(准教授以下)の数
- ・人材コアプログラムの講義数
- ・人材コアプログラム参加組織(大学等)数
- ・交流(研修)教員数
- ・教員へのアンケート調査、学生授業評価
- ・教員パフォーマンス指標の定量化の提案

工学系人材養成機構

事業推進委員会

- ・研究科長, 研究院長, 学院長

事業の推進, 将来構想

企画・運営委員会

- ・各大学からの選出委員
- ・東工大オフィス

企画立案, 事業の運営

人材養成プログラム

交流事業

- ・知の共有化
- ・組織の共進化

- ・育成から交流事業
- ・ロールモデル提示

若手教員の育成

- ・人的ネットワーク
- ・新しい教育力
- ・教育手法の感受

実施

各大学のプラットフォームを有効活用した, 育成事業